○「New MQL4 (Build 600 以降);基礎 (その4) OnChartEvent() [1/2]」 2014.09.19

・アメンボです、

本稿での報告は「OnChartEvent()」関数です。 名称から推測される様に、この関数はチャート上オブジェクト(主にグラフィック)の イベント発生時(例えばボタンが押された時)に呼出(割込み)されます。 これを呼び出すイベントは、大きく下記の「2種類」に分類されています。

① MQL5 (システム) 備え付けのイベント

② ユーザーが任意に設定するカスタム・イベント 本稿では、上記の「①」の検証結果を解説します。

・ところで、

既にお気づきの読者がおられるとおもいますが、本稿での検証結果内容は以前に筆者が MQL5の翻訳調査内容(未実行)として報告済みの内容と99%同一です。 つまり、MQL5の資産は特殊なもの(OnTrade()やOnBookEvent()等、NewMQL4に無いもの)を 除き、多くは略そのままのコードでも、New MQL4上で動作する!、と言う事です。

< MQL5の過去の遺産は発掘する価値がある!、です >

!本当は、

New MQL4 でも「OnTrade()や OnBookEvent()」がサポートされると嬉しいのですが、 MQL5 の OnTrade()では「deal」の概念が入っているので難しいのかも! しかし、New MQL4 (Build670) では「板画面表示」はされるので、この先に何か進展が?? (でも、この「板画面表示」の使い方と、メリットが良く分からない!!)

<本稿で使用した MQL4 コード>

※使用コード;「new_mq14_2014_09_02.zip; New MQL4 ChartEvent() [1/2]」(ZIP 形式圧縮)
 ※本稿は「MT4; version 4.00 Build670」「MetaEditor; version 5.00 Build66」にて確認済み。

目次:

1.「イベント・ハンドリング関数」一覧(MQL5 との比較)	••P 2
2.OnChartEvent()の関数書式と引数	••P 2
3. Chart Eventの種類 (OnChartEvent()が呼出されるイベント)	••P3
4. OnChartEvent()の使い方例 (呼び出し例)	
(1)例1;キーボード・イベント	••P3
(2)例2;グラフィック・オブジェクト(ボタン)のクリック検出	••P6
5. 参考	
(1) キー・コード一覧 (例)	••P9
(2)ObjectCreate 関数	••P10
(3) グラフィカル・オブジェクトの種類(抜粋)	••P11

1 / 11

1. 「On****()」ハンドリング関数(MQL5 との比較)

New_MQL4 で使用可能な「ハンドリング関数」を MQL5 と比較しながら、使用方法を解説します

		機能	サホ。ート	New	MQL4 のサポー	卜範囲	確認
				EA	Indicator	Script	
	イヘンント・トリカンと	NOLE	New	関数	インディケータ	スクリフ゜ト	
	モート、「另门	MQLO	MQL4	使用	表示	実行	
OnStart()	_	0	0	0	—	0	
OnInit()	開始	0	0	0	0		
OnDeinit()	終了	0	0	0	0	—	
OnTick()	ティック	0	0	0	—	—	
	マルチカレンシー・モート゛	0	?	?	—		
OnTimer()	タイマー	0	0	0	0		済
OnTrade()	order • deal • position	0	_	_	—		
OnTradeTransaction()		0	_	_	—	—	
OnTester()	ストラテジ ー・ テスター	0	0	0	—		済
OnBookEvent()	板(DOM)情報	0	_		—	—	
OnChartEvent()	10 種類	0	0	0	0		本稿
	カスタム・イヘ゛ント	0	0	0	0		
OnCalculate()	インディケータ表示計算	0	0		0		済
	簡略タイプ	0	?		?		

2. OnChartEvent()の関数書式と引数

void OnChartEvent (

const int id,	//イベント ID(識別子)	
const long &lparam,	//イベント・パラメータ	(long タイプ)
const double &dparama,	//イベント・パラメータ	(double タイプ)
const string &sparam	//イベント・パラメータ	(string タイプ)
)		

※「id」により、どの様なイベントが発生したかを判別することが可能であり、また 「パラメータ;lparam、dparam、sparam」により更に詳細な情報を得ることが出来る。

例えば、「id」によりマウスがチャート上で「クリック」されたことを判別し、 「パラメータ」により、クリックされたチャート上の「位置」を知る事が出来る。

3. Chart Event の種類 (OnChartEvent()が呼出されるイベント)

・OnChartEvent()を呼び出すイベントの内、システム備え付けのものは「10種類」あります。 <イベント; ID とパラメータ>

		TD	407 3 5	返し値			
	1~21(刮込) 発生	LD	て	lparam	dparama	sparam	
1	キーが押された	CHARTEVENT_KEYDOWN	どのキーが押されたか	キー・コー ト	_	_	
2	マウスが動いた	CHARTEVENT_MOUSE_MOVE	マウスの動きをフォロー	X 座標	Y座標	ビット・マスク値 ボタン検出用	
3	グラフィカル・オブジェクトの 作成	CHARTEVENT_OBJECT_CREATE	_	_	—	作成された オブジェクト名	
4	グラフィカル・オブジェクトの 変更	CHARTEVENT_OBJECT_CHANGE	_			変更された オブジェクト名	
5	グラフィカル・オブジェクトの 削除	CHARTEVENT_OBJECT_DELETE	_			削除された オブジェクト名	
6	チャート上で マウスがクリックされた	CHARTEVENT_CLICK	クリックした座標検出	X 座標	Y座標	_	
7	グラフィカル・オブジェクト上 でマウス・クリックされた	CHARTEVENT_OBJECT_CLICK	オブジャクトがある チャート上の座標検出	X 座標	Y座標	クリックされた オブジェクト名	
8	グラフィカル・オブジェクトが マウスでドラッグされた	CHARTEVENT_OBJECT_DRAG	—	—	—	ドラッグされた オブジェクト名	
9	オブジェクトのラベルが 編集された	CHARTEVENT_OBJECT_ENDEDIT	_			ラベル編集済み オブジェクト名	
10	チャート変更	CHARTEVENT_CHART_CHANGE	表示チャートの変更	_		—	
11	ューザー定義イベントが 発生した	CHARTEVENT_CUSOM+N	_	※ 1	₩1	※ 1	

※「パラメータ」を解析することで、詳細情報が判明する。

※1; EventChartCustom()によって設定した値が返る・・・本件は「別稿」にて解説予定
 N=0の場合は「ID= CHARTEVENT_CUSOM」、N=LastNoの場合は「ID= CHARTEVENT_CUSOM_LAST」

4. OnChartEvent()の使い方例(呼び出し例)

(1) 例1;キーボード・イベント

- -1. イベント(割込)概要;
 - ・キーボード・イベントが発生する(キーが押される)と、OnChartEvent()が呼び出され、 その「イベント・パラメータ;lparam」に押されたキーのコードが乗ってくる。

・キーボード・イベント; IDとパラメータ(再確認) <解説用の抜粋>

	(小うい) (生にた) 惑件	10 (熱別乙)	瓶里		返し値	
	1、1、1、110/1912	エレ(昨秋万寸丁丁)	风安	lparam	dparama	sparam
1	キーが押された	CHARTEVENT_KEYDOWN	どのキが押されたか	キー・コート゛		_

-2. 上記のコード構成(例);

```
//+-----
                                                     _____+
///
                                                ChartEvent_02.mq4
///
                                                          amenbo
///
                                                 泉の森の弁財天池
//+-----
#property copyright "amenbo"
                  "泉の森の弁財天池"
#property link
                  "1.00"
#property version
#property strict
#property indicator_chart_window
//
#define KEY_NUMPAD_5
                         12 // T5 テンキー NumLock_OFF
#define KEY_LEFT
                         37 //
                                ← キー
                         38 //
#define KEY_UP
                                    キー
                                Î
#define KEY_RIGHT
                         39 // \rightarrow
                                   キー
                         40 //
                               Ţ
                                  キー
#define KEY DOWN
                         98 // T2 テンキー NumLock_ON
#define KEY NUMLOCK DOWN
#define KEY_NUMLOCK_LEFT 100 // T4 テンキー NumLock_ON
                        101 // T5 テンキー NumLock_ON
#define KEY_NUMLOCK_5
#define KEY_NUMLOCK_RIGHT 102 // T6 テンキー NumLock_ON
                        104 // T8 テンキー NumLock_ON
#define KEY_NUMLOCK_UP
//+-----
//| Custom indicator initialization function
//+-----
int OnInit()
 {
  //--- indicator buffers mapping
  //----
  return(INIT_SUCCEEDED);
 }
//
void OnDeinit(const int reason)
 {
  //----
//+-
// Custom indicator iteration function
//+-----
int OnCalculate(const int rates_total,
               const int prev_calculated,
               const datetime &time[],
               const double & open[],
               const double &high[],
               const double &low[],
               const double &close[],
               const long &tick_volume[],
               const long &volume[],
               const int &spread[])
  {
```

```
//----
```

```
// ここにインディケータ本体を記述
  //--- return value of prev_calculated for next call
  return(rates_total);
 }
 //
//+---
// ChartEvent function
//+-----
//チャート・イベント検出(この場合はキーボード・イベント)
void OnChartEvent(const int id, // 「CHARTEVENT_KEYDOWN」が返される
               const long &lparam, // 押された「キーのコード」が返される
               const double &dparam, // (使用せず)
               const string & sparam // (使用せず)
               )
 {
 //キーボード上のキーが押されたら実行する
  if (id==CHARTEVENT_KEYDOWN)
    {
     switch((int)lparam)
       {
       case KEY_NUMLOCK_LEFT: Print(" [T4] テンキーが押された");
                                                            break;
                            Print("[←] が押された");
       case KEY_LEFT:
                                                            break;
                            Print("「T8] テンキーが押された");
       case KEY_NUMLOCK_UP:
                                                            break;
       case KEY_UP:
                            Print("[↑] が押された");
                                                            break;
       case KEY_NUMLOCK_RIGHT: Print(" [T6] テンキーが押された");
                                                            break;
                            Print(" [→] が押された");
       case KEY_RIGHT:
                                                            break;
       case KEY_NUMLOCK_DOWN: Print("[T2] テンキーが押された");
                                                            break;
                            Print(" [↓] が押された");
       case KEY_DOWN:
                                                            break;
                            Print("「T5] が押された NumLock OFF"); break;
       case KEY_NUMPAD_5:
                            Print("[T5] が押された NumLock_ON "); break;
       case KEY_NUMLOCK_5:
       default:
                            Print("定義した以外のキーが押された");
      }
  //
     ChartRedraw();
    }
  //
     PlaySound("tick");
  //
 }
```

-3. 実行結果

※キーボードの「押されたキー」に従って、プリント文が実行される。

×	時	間	メッセージ	
	0	2014.09.18 00:16:2	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: [←] が押された	
	0	2014.09.18 00:16:2	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: [→] が押された	
	0	2014.09.18 00:16:2	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: [↑] が押された	
	0	2014.09.18 00:16:1	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: 定義した以外のキーが押された	
-	0	2014.09.18 00:16:1	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: [T8] テンキーが押された	
Ť	0	2014.09.18 00:16:1	ChartEvent_02 USDJPYFXF,Daily: 定義した以外のキーが押された	
Ţ	J	〒1 口座履歴 ニュース	、 アラーム設定 メールボックス 会社名 マーケット ライブラリ エキスパート 操作履歴	

(2) 例2; グラフィック・オブジェクト (ボタン) のクリック検出

-1. イベント(割込)概要;

 チャート上のオブジェクトをマウスでクリックすると、割込みが発生し OnChartEvent()で、これを検出することができる。

<解説用の抜粋>

	ふい活ち	ID (熱別乙)	之) 概两		返し値			
			帆安	lparam	dparama	sparam		
	ク [*] ラフィカル・		チャート上のオブジェクト			クリックされた		
7	オブジェクト上で	CHARTEVENT_OBJECT_CLICK	(ボタン等)名や、	X 座標	Y座標	オブジェクトタ		
	マウス・クリックされた		座標検出など			∧, , <u>,</u> , , <u> </u>]		

-2. 上記のコード構成(例);

```
//+
                                               ChartEvent 01.mq4
//
//
                                                         amenbo
                                                泉の森の弁財天池
//
//+
#property copyright "amenbo"
                  "泉の森の弁財天池"
#property link
                  "1.00"
#property version
#property strict
//
     標準関数のみ使用、標準クラスは使わないで記述
//
//
     このレベルでは、標準クラスを使うメリットは無し
//+
//| Expert initialization function
//+-
int OnInit()
  ł
  //--
       bool Result;
       ResetLastError();
       //作成するボタンの属性(プロパティー)
       long Chart ID=0;
       string Name="button1";
       string Title ="押して!";
       color BorderColor = Black;
       color ButtonColor = Aqua;
       int DistanceX = 100;
       int DistanceY = 100;
       int Width = 70;
       int Height = 25;
  //
       //新規にボタンを作成
       Result = ObjectCreate(Chart ID, Name, OBJ BUTTON, 0, 0, 0);
       //ボタンにタイトルを設定
       ObjectSetString(Chart_ID, Name, OBJPROP_TEXT, Title);
       ObjectSetString(Chart_ID, Name, OBJPROP_FONT, "MS 明朝");
       ObjectSetInteger(Chart_ID, Name, OBJPROP_SELECTABLE, false);
       //ボタンをチャート上に置く位置を設定
       ObjectSetInteger(Chart_ID, Name, OBJPROP_XDISTANCE, DistanceX);
       ObjectSetInteger(Chart ID, Name, OBJPROP YDISTANCE, DistanceY);
```

```
//ボタンのサイズ(幅と高さ)を設定
      ObjectSetInteger(Chart_ID, Name, OBJPROP_XSIZE, Width);
      ObjectSetInteger(Chart ID, Name, OBJPROP YSIZE, Height);
      //ボタンの色を設定(境界色と塗りつぶす色)
      ObjectSetInteger(Chart_ID, Name, OBJPROP_COLOR, BorderColor);
      ObjectSetInteger(Chart_ID, Name, OBJPROP_BGCOLOR, ButtonColor);
      if(_LastError!=0)
      ł
             Result = false;
      }
  //----
  return(INIT_SUCCEEDED);
                                _____
//+-----deinitialization function
void OnDeinit(const int reason)
{
      //ボタン削除
      ObjectsDeleteAll(0);
}
                      _____
//+
//| Expert tick function
                         _____
//+--
void OnTick()
 {
//--
      //通常は、ここがEAの本体コード
                           _____
//+--
//| ChartEvent function
//+-----
//チャート・イベント検出(この場合はオブジェクトのクリック)
               (const int id, // 返されるイベント id
const long &lparam, // 通常「X座標」が返される
const double &dparam, // 通常「Y座標」が返される
void OnChartEvent(const int id,
               const string & sparam //「オブジェクト名称」が返される
               )
{
  //id として「CHARTEVENT OBJECT CLICK」が返されたら
 if(id==CHARTEVENT_OBJECT_CLICK)
 {
   if (sparam=="button1")
   ł
     if(ObjectGetInteger(0, sparam, OBJPROP_STATE) == true)
     Alert("ボタンが押されました");
     ObjectSetInteger(0, sparam, OBJPROP_STATE, 0);//ボタンを押されていない状態に戻す
     11
     ChartRedraw();
     }
   }
   // 確認用に print する
   Print("(X,Y)= (", lparam, ", ", DoubleToString(dparam, 0), ")");
   Print("Object_Name= ", sparam);
 }
  //
}
```

-3. 実行結果

※チャート上に作成した [ボタン] をクリックすると、「ボタンが押されました」と アラート・ボックスに表示される。



※アラート内の履歴表示が文字化けしているのですが、修正方法が未だ判らず!? [エキスパート] タブの表示;

×	時	1	メッセージ				
	0	2014.09.18 00:02:1	nartEvent_01 USDJPYFXF,Daily: Object_Name= button1				
	0	2014.09.18 00:02:1	artEvent_01 USDJPYFXF,Daily: (X,Y)= (138,110)				
	0	2014.09.18 00:02:1	ChartEvent_01 USDJPYFXF,Daily: Alert: ボタンが押されました				
	۲	2014.09.18 00:02:1	ChartEvent_01 USDJPYFXF,Daily: initialized				
<u>_</u>	0	2014.09.18 00:02:1	Expert ChartEvent_01 USDJPYFXF, Daily: loaded successfully				
ħ							
<i>₹</i>	ļ	取引 口座履歴 ニュース	. アラーム設定 メールボックス 会社名 マーケット ライブラリ エキスパート 操作履歴				

5. 参考

(1) キー・コード一覧(例)・・・「青書部」を「例1」で使用した

アルファベット			数字 テンキー数字			テンキー記号			記号						
	А	65	0	79	0	48	TO		96	T*	106		:*	186	
	В	66	Р	80	1	49	T1		97	T+	107		;+	187	
	С	67	Q	81	2	50	T2		98				, <	188	
	D	68	R	82	3	51	T3		99	T-	109		-=	189	
	Е	69	S	83	4	52	T4		100	Т.	110		.>	190	
	F	70	Т	84	5	53	T5		101	T/	111		/?	191	
	G	71	U	85	6	54	T6		102				@`	192	
	Н	72	V	86	7	55	T7		103				[{	219	
	Ι	73	W	87	8	56	T8		104				¥	220	
	J	74	Х	88	9	57	Т9		105]}	221	
	K	75	Y	89									~~	222	
	L	76	Ζ	90									¥_	226	
	М	77													
	Ν	78													
7	アアン	クション	ンキー	-	制御キー										
F	1 (^,	ルプ)		112	BackSpace 8 End			nd	35		英数		240		
	Fź	2	F2 113 NumLockOFF Ø T5		10	Home			-		171	242			
I	F3 (検索) 114 Enter / 1 Enter				15		12	Но	me	36	20	タカナ らがな	/ U` :		
	F3(椅	資素)		114	Er	15 nter / Enter	Т	12	Ho	me 	36 37	20	タカナ らがな Esc	70°	243
F4 (`	F3(検 アドレ	È索) 	•)	114 115	Er	nter / Enter Shift	Т	12 13 16	Ho	me 	36 37 38	<u>بر</u> ۲	タカナ らがな Esc 半角/全	/ U、 、 角	243
F4 (`	F3(検 アドレ F5(更	è索) - スバー 〔新〕	·)	114 115 116	Er	15 nter / Enter Shift Ctrl	Т	12 13 16 17	Ho •	me	36 37 38 39	<u>بر</u>	タカナ らがな Esc 半角/全 Tab	角	243 244 9
F4 (*	F3(検 アドレ F5(更 (フォ・	读索) - スバー 〔新〕 - カス〕	·)	114 115 116 117	Er	15 nter / Enter Shift Ctrl Alt	T	12 13 16 17 18	Ho	me	36 37 38 39 40	ул Ц Ц	タカナ らがな Esc 半角/全 Tab	角	243 244 9
F4 (` I F6	F3(検 アドレ F5(更 (フォ・ F	读索) /スバー 夏新) ーカス) 7	·) [114 115 116 117 118	Er	15 nter / Enter Shift Ctrl Alt Pause	T	12 13 16 17 18 19	Ho 	me → ert	36 37 38 39 40 45		タカナ らがな Esc ド角/全 Tab	角	243 244 9
F4 (1	F3(栫 アドレ F5(更 (フォ・ Fi	^(東京) マスバー (王新) ーカス) 7 8		114 115 116 117 118 119	Er	15 nter / Enter Shift Ctrl Alt Pause 変換	T	12 13 16 17 18 19 28	Ho For Ins Del	me 	36 37 38 39 40 45 46		タカナ らがな Esc 半角/全 Tab	クレビジョン 角	243 244 9
F4 (1	F3(栫 アドレ F5(更 (フォ、 F [*] F [*]	^(東京) (マスパー (王新) (一カス) 7 8 9		114 115 116 117 118 119 120	Er	15 nter / Enter Shift Ctrl Alt Pause 変換 無変換	T	12 13 16 17 18 19 28 29	Ho For Ins Del	me 	36 37 38 39 40 45 46 91		タカナ らがな Esc ド角/全 Tab	クレビジョン 角	243 244 9
F4 (1	F3(樹 アドレ F5(更 (フォ、 F ⁷ F10(4	 (スパー) (三新) (一カス) (一カス) 7 8 9 Alt) 		114 115 116 117 118 118 119 120 121		15 nter / Enter Shift Ctrl Alt Pause 変換 無変換	T	12 13 16 17 18 19 28 29 32	Ho For Ins Del Wa	me 	36 37 38 39 40 45 46 91 93		タカナ らがな Esc 上角/全 Tab	角	243 244 9
F4 (1	F3(梅 アドレ F5(更 (フォ、 F [*] F10(<i>i</i> 1(全	 マスパー 夏新) ーカス) 7 8 9 Alt) 画面) 		114 115 116 117 118 119 120 121 122		15 nter / Enter Shift Ctrl Alt Pause 変換 気ペーン PageUp	T	12 13 16 17 18 19 28 29 32 33	Ho Ho Ins Del W Ap	me 	36 37 38 39 40 45 46 91 93 144		タカナ らがな Esc ド角/全 Tab	角	243 244 9

(2) ObjectCreate 関数

・ObjectCreate 関数は「初期座標」に「指定名称・タイプ」のオブジェクトを作成する、 同一のオブジェクトを一度に 30 個まで置く事ができる。

bool ObjectCreate(

long	chart_id,	// チャート識別子
string	name,	// オブジェクト名
ENUM_OBJECT	type,	// オブジェクト・タイプ
sub_window	nwin,	// ウインドウ・インデックス(オブジェクトを置く)
datetime	time1,	// 第1番アンカー・ポイント「時間」座標
double	pricel,	// 第1番アンカー・ポイント「価格」座標
datetime	<i>timeN=0</i> ,	// 第N番アンカー・ポイント「時間」座標
double	priceN=0,	// 第N番アンカー・ポイント「価格」座標
);		

パラメータ;

chart_id	[in]	チャート識別子、「0」は現在のチャートを示す
name	[in]	オブジェクト名称、サブウインドウを含むチャート上で、
		ユニークな名称であること。
type	[in]	オブジェクト・タイプ、 <u>ENUM_OBJECT</u> 列挙型の一つであること。
sub_window	[in]	チャート・サブウインドウ番号、「0」はメイン・チャート。
		指定した番号が存在しないと「false」を返す。
time1	[in]	第1番アンカー・ポイント「時間」座標
price1	[in]	第1番アンカー・ポイント「価格」座標
timeN=0	[in]	第N番アンカー・ポイント「時間」座標、デフォルトは「0」
priceN=0	[in]	第N番アンカー・ポイント「価格」座標、デフォルトは「0」

返し値;

新規に、オブジェクト作成;

・成功 → TRUE、 ・失敗 → FALSE

既に、同一「名称、タイプ」のオブジェクトが存在している場合;

・「時間・価格」座標を変更する

※オブジェクト・タイプによって、指定が必要な「アンカー・ポイント」数が異なる。

ENUM_OBJECT 列挙型 <解説用の抜粋>

チャート識別子	種類	アンカー・ポイント
OBJ_BUTTON	ボタン	アンカー・ポイントに対して <u>OBJPROP_XDISTANCE</u> と <u>OBJPROP_YDISTANCE</u> を指定する

ENUM_OBJECT_PROPERTY_STRING 列挙型 <解説用の抜粋>

・「ObjectSetString()」で使用

識別子	解 説	フ゜ロハ゜ティー・タイフ゜
OBJPROP_TEXT	オブジェクトの記述(テキスト解説)に用いる	string

ENUM_OBJECT_PROPERTY_INTEGER 列挙型 <解説用の抜粋>

・「ObjectSetInteger()」と「ObjectGetInteger()」で使用する

識別子	解 説	フ゜ロハ゜ティー・タイフ゜
OBJPROP_COLOR	配色	color
OBIPOP_BGCOLOR	オブジェクトのバックグラウンド(塗り潰し)色 対象;OBJ_EDIT, OBJ_BUTTON, OBJ_RECTANGLE_LABEL	color
OBJPROP_SELECTABLE	オブジェクト選択可否	bool
OBJPROP_XDISTANCE	アンカー・ポイントから、オブジェクトを X軸方向に動かすピクセル数	int
OBJPROP_YDISTANCE	アンカー・ポイントから、オブジェクトを Y軸方向に動かすピクセル数	int
OBJPROP_XSIZE	X 軸方向のオブジェクト寸法(サイズ) (ピクセル数で表す幅)	int
OBJPROP_YSIZE	Y軸方向のオブジェクト寸法(サイズ) (ピクセル数で表す高さ)	int
OBJPROP_STATE	ボタンの状態(押された/離された)	bool

(3) グラフィカル・オブジェクトの種類(抜粋)

※「ObjectCreate()」で作り出せるオブジェクト郡(40個)からの抜粋

ENUM_OBJECT ;翻訳しずらいものは、原文のまま(アメンボの不勉強が原因です)

ID (識別子)		解説		
OBJ_VLINE	I	垂直線		
OBJ_HLINE	Ι	水平線		
OBJ_TREND	/	トレンド・ライン		
OBJ_RECTANGLE		四角		
OBJ_TRIANGLE		三角		
OBJ_ELLIPSE	0	楕円		
OBJ_ARROW_SELL	•	売りサイン		
OBJ_ARROW	\$\$	矢印		
OBJ_TEXT	Т	テキスト		
OBJ_LABEL	А	ラベル		
OBJ_BUTTON	OK	ボタン		
OBJ_EVENT	13:30>	The "Event" object corresponding to an event in the economic calendar		
OBJ_RECTANGLE_LABEL		四角いラベル・オブジェクト、 ユーザーが任意のグラフィカル・インターフェースを 作成するために使う		